

平成30年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	認知症カフェ・かきつばたの運営		
事業主体	実施団体	市（関係課）	
	社会福祉法人 翡翠会	高齢者支援課	

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付決定額）
	502,050 円	691,785 円	300,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

○認知症患者ご本人とその家族の思いや苦しみを共有し、相談できる場の提供や社会参加の機会を提供することで、「認知症になっても、住み慣れた大網白里市で暮らし続けたい」という願いにこたえる。

○毎月2回（第2・4木曜日） 11:00～14:00 開催

○小規模多機能型居宅介護支援事業所かきつばた内
大網白里市南横川1726-6

○近隣住民全てを対象とする

○喫茶・昼食を安価で提供し、憩いの場として事業所の一部を開放。

大網白里市地域包括支援センター職員やかきつばたを始めとする居宅介護支援事業所の協力により個別相談を実施する。ボランティアにも積極的に声掛けし、コミュニティの醸成を図る。

○広報活動は市と協力し、市のホームページや広報誌への掲載、公共機関へのポスター掲示や回覧板でのチラシの配布等をおこなった。

○大網ロータリークラブや協働事業採択の他団体・ボランティア団体、企業の協賛により子ども食堂を開催。大網ロータリークラブの協賛で市内の中学生以下の児童に無料で食事を提供した。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

- 事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。
- 協働で行うことでどのような効果が得られたか。
- 住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。
- 事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

- 認知症の患者やご家族だけでなく、地域住民の全てが参加できており、「誰もがくつろげるカフェ」として、居場所づくりができるよう心掛けた。
- 市と共同で行うことで、市民への広報周知が円滑に行えた。本市が管理するホームページや広報誌、公共機関への掲示物等を活用できたことは、多くの市民の目に触れる機会となり、また活動の信頼性を高めることができた。周知については、出前講座のDMが最も効果的で、次いで「いきいき元気クラブ」でのチラシ配布だった。
- 出前講座を開催することで、その後のカフェへの参加者も増え相乗効果があった。認知症への啓蒙となる「認知症サポーター養成講座」だけでなく、健康講座や防犯・交通安全講座等、60～70代の元気な高齢者の方々に対しても参加が増え、リピーターも増加した。
- 市広報でボランティアを継続的に周知することで、ボランティアが少しずつ増えてきた。「お菓子作り」等、役割を絞ったことも功を奏した。
- 子ども食堂については、大網ロータリークラブの資金的・人的援助が大きかった。ボランティアも毎回10名以上の参加したり、本事業の採択他団体ともコラボが実現するなど、他団体とも連携し大いに盛り上がった。次年度は参加する子どもとその保護者をいかに巻き込めるかが課題と考えている。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) 昨年の平均客数は12名/日だったが、今年 は29.4名、年間延べ597名の参加があり大 いに伸びた。出前講座や子ども食堂がある 回の参加が多く、イベントのない回は低調 だった。	<input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・認知症カフェを通じて認知症への関心が 高まったと思う。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・ カフェの運営 メニュー開発・調理・盛付・提供 ・ 各署への協力要請（RC・企業・ボランティア団体等） ・ イベント企画（子ども食堂） ・ 広報デザイン（チラシ・HP・SNS） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症等の相談を受けられるよう職員を開催日に派遣した。 ・ 認知症サポーター養成講座を出前講座として認知症カフェで開催した。年2回 ・ カフェや出前講座のポスターをスーパーや郵便局、公民館、市役所等に掲示し、サロンや老人クラブ等でちらしの配布や出前講座にあわせて全戸回覧を行った。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） 自法人だけで全てを完結するのではなく、様々な団体に協力・コラボを依頼することで活動に厚みが増してきたと感じる。今後は同じ介護事業所や民生委員など、関係者との連携を広げていくことが課題。	<input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） ・ カフェのPRと開催時の職員派遣が主な役割 ・ 市内公的機関へのポスター掲示は市役所だから容易にできることであり、サロンや老人クラブとの関係も地域包括支援センターがかかわりが深いのでPR活動はしやすい。また、認知症カフェに定例で職員を派遣していたので、法人の職員さんとのコミュニケーションもとれ、相談者にもゆったりと接することができた。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
4月12・26日カフェ開催	4月12・26日実施（参加者：11名・9名）
5月10・24日カフェ開催	5月10・24日実施（参加者：5名・12名）
6月14・28日カフェ開催	6月14・28日実施（参加者：27名・7名）
※14日 出前講座「認知症サポーター養成講座」	※14日 出前講座「認知症サポーター養成講座」開催
7月12・26日カフェ開催	7月12・26日実施（参加者：17名・70名）
※26日 子ども食堂を同時開催	※26日 子ども食堂を同時開催
8月9・23日カフェ開催	8月9・23日実施（参加者：53名・91名）
※9・23日 子ども食堂を同時開催	※9・23日 子ども食堂を同時開催
9月13・27日カフェ開催	9月13・27日実施（参加者：9名・26名）
※27日 出前講座「自分の健康は自分で守ろう」	※27日 出前講座「自分の健康は自分で守ろう」
10月11・25日カフェ開催	10月11・25日実施（参加者：9名・8名）
11月8・22日カフェ開催	11月8・22日実施（参加者：5名・32名）
※22日 出前講座「高齢者の交通安全・防犯講座」	※22日 出前講座「高齢者の交通安全・防犯講座」
12月13・27日カフェ開催	12月13・27日実施（参加者：4名・95名）
1月10・24日カフェ開催	※27日 子ども食堂を同時開催
※24日 出前講座「元気の源!!お口の健康講座」	1月10・24日実施（参加者：7名・20名） ※24日 出前講座「元気の源!!お口の健康講座」
2月14・28日カフェ開催	2月14・28日実施（参加者：16名・13名）
	3月14・28日実施（参加者：27名・27名）
	※14日 出前講座「認知症サポーター養成講座」・
	28日 出前講座「消費者トラブルに気を付けて！」開催
	☆下線部はプラス開催した部分

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体

- 適正であった
- 概ね適正であった
- あまり適正でなかった

(理由)

当初出前講座を4回、子ども食堂を3回企画していた。しかしイベントの無い開催は集客が前年以上に厳しかったため、子ども食堂・出前講座を予定より増やしたことが功を奏した。次年度は出前講座の回数を増やし、その他の開催日についても、参加者を増やす仕掛けが必要。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例: ○○を購入したことにより○○のスキルが上がり、効率的に活動できた。○○活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

1年目は、カフェ単独営業を重視した。初年度で目新しさもあったからか平均12名位の集客があった。しかし2年目は通常営業の日は客数が1ケタ台の日が続き、改善の必要性を感じた。

そこで今年度活用したのが、市の「出前講座」。当初「認知症サポーター養成講座」のみを考えていたが、保健師・歯科衛生士による健康関連の講座や防犯・交通安全・消費者トラブル対策等の講座も市民の関心があることが分かった。

当初ターゲットを認知症当事者とその家族と考えていた。しかし、「いきいき元気クラブ」で出前講座のチラシを配布したところ、思わぬ反響があったことから、ターゲットを以下の様に捉えなおした。

(ターゲット)

年 齢：60・70代前後の元気な方々

目 的：「認知症になりたくない」予防の知識や認知症になった後どうしたら良いか知りたい。コミュニケーションの場が欲しい。

子ども食堂については、さらに幅広い地域住民に参加して頂く機会となった。しかし認知症カフェと子ども食堂の客層はリンクしていなかった。次年度はそこを見極めたい。

また、その結果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input checked="" type="checkbox"/> 強化、活性化した <input type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した <input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった (理由) 継続性という部分では、2年間同じ場所・同じ日時で開催出来たため、徐々に浸透してきた。毎月市の広報誌に活動を掲載したり、チラシを市内公共機関に掲示したり、市のHPに掲載したりと、継続的に露出してきたことも、知名度を上げられた要因かと考える。

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
<p>出前講座を活用することで、講師への謝礼を必要とせず、参加者への啓蒙・学びを提供出来たことは有意義であり、それが集客増につながったと思われる。市民への情報発信としてカフェを活用できることは、翡翠会・大網白里市双方にメリットがあったと思われる。</p> <p>問題点は補助金の使途。子ども食堂を開催する際に、食費に本事業の財源を活用できないことには苦慮した。しかしおかげで大網 RC からの協力を得ることが出来たとも言える。</p>
市
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護かきつばたに独居認知症の困難事例を担当してもらい、現在グループホームへ入所して安心して毎日笑顔で生活されている方がいる。対応困難なケースに快く手を差し伸べてくれ、助かった家族はたくさんいる。今後変わらず柔軟な対応をお願いしたい。 ・協働により法人と市の職員お互いが顔のみえる関係から信頼できる関係へと変化していき良好な関係で仕事ができるようになった。 ・問題点は、認知症の相談件数自体は少ないので、今後もPR活動は継続する必要があるが、幅を広げて、市ではできない臨機応変な対応ができる法人ならではの認知症カフェでの催し物や出前講座などを展開していただけたらと期待する。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<p> <input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) 集客も昨年の倍以上となり、より良くなったと感じる。一方で従来の認知症カフェと子ども食堂の住み分けについては、31年度実施し、方向性を決める必要があると感じる。 </p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・協働事業が終了したあとの協働も企画しているのので、市の施策とタイアップできるように検討していきたい。 </p>